

高 2 選抜東大英語

高 2 東大英語



17章 比較1

問題

【1】

A.

全訳

①考えるということは人間にとって、猿が2本足で歩くのと同様に、不自然でしかも骨の折れる行為である。我々は必要以上に物を考えるということはめったにしない。そして考えたくないという気持ちが最も著しいのは、一般的に、我々が最も快適に感じているときである。②人間がこのように物を考える煩わしさを嫌う気持ちは、公的な生活においても私生活においてと同様に著しいのであるから、人間は呑気で繁栄している時代には歴史的思索をあまりしない。そうした泰平の時代には、我々はたいてい、歴史の流れの中を旅していることにも気づかず、ただ歴史を生き抜くだけで満足する。また過去において、人間生活が全般的に幸福であるような期間はたいてい短かったが、③その短い期間というのはたいてい、歴史というものは自分自身の世代には絶対に襲いかかることのない、何か不快なものだと人々を錯覚させるだけの長さであった。他の時代や場所では、他の人々が歴史的災難に時折遭遇してきたということ、人々は十分承知しているのであるが。

B.

全訳

人間関係で最も大きな危険の1つは自己本位になることである。確かに、これほど人々を引き離すものはなく、これほど人々が陥りやすいものもない。

C.

全訳

人が自立できるのは、資力の大きさのおかげによってというよりも、むしろ欲望の小ささのおかげによってである。

【2】

解答

- (1) 「全訳」の下線部①, ②参照。
- (2) b
- (3) 日本が個人的にも一国家としても、西洋人との関係において控えめな役割に甘んじざるをえなかったという状況。
- (4) a
- (5) c

解答

- (1)
 - ①◇ suspect that ~ 「～ではないかと思う」

cf. doubt if [whether] ~ (～でないと思う)

I suspect that he is lying. (彼が嘘をついているのではないかと思う。)

I doubt if he is telling a truth. (彼は本当のことを言っていないのではないだろうか。)

◇ this is as much a question of power as of ability 「これは能力の問題であるのと同じくらい権力の問題でもある → これは能力の問題であると同様に権力の問題でもある」

○ this は前文の内容を受ける。

○ (a question) of ability と内容を補って考える。

②◇ your sincerity is judged by the degree to which your behaviour matches the expectations attached to your role 「人の誠実さは、役割にかけられる期待にどれだけかなう行動をとるかによって判断される」

○ sincerity 「率直さ, 誠実」

○ to ~ degree 「～の程度まで」の to が関係代名詞の前についた形。

○ match 「①～を(…と)競争させる ②～に匹敵する, ～にかなう ③～と調和する, ～に調和させる」

○ attached は the expectations を修飾する過去分詞。

○ the expectations which are attached to ~

< attach A to B 「AをBにくっつける」

◇ Not, as in the West, by the degree to which your behaviour matches your personal feelings 「西洋においてのように, あなたの行動があなたの個人的感情にどれくらいかなっているかによってではなく」

○ (your sincerity is) not (judged) … と内容を補って考える。

○ as in the West 「西洋においてのように」

○ 様態を表す接続詞 as (S V が省略された形)

(2) 「優位に立つ西洋人」と「控えめな態度の日本人」を比較・対照する部分なので, 「他方」の意味の接続語句が入る。

a at second hand = secondhand 「また聞きで; 間接に」

b on the other hand 「その一方で」

c on the contrary 「(文頭で) それどころか / (文中で) しかしながら」

d to the contrary 「(修飾する語句の後で) それと反対に, それにもかかわらず; (文頭で) それどころか 《米》」

(3)

日本は復興し世界最大の経済大国になったために, それまでの控えめな役割に甘んじなくなりつつある, ということが述べられている。

(4)

a 西洋人はいまだに国際会議において力を持っている。

b 西洋人は日本人の言うことを一生懸命理解しようとしている。

c 日本人には結局何も言うことがない。

d 日本人はできるだけ応酬しようとしている。

(5)

take part in 「～に参加する」の in が関係代名詞の前に置かれた形。

全訳

アメリカ人とヨーロッパ人は、自国の文化を外国に紹介するのがよりうまいのと同様に、考えを練り上げ、それを他人に伝えるのが日本人よりもうまいとしばしば言われる。①これは能力の問題であるのと同時に権力の問題でもあるのではないかと私は思う。世界中が19世紀にはヨーロッパ人の言うことに、そして20世紀にはアメリカ人の言うことに耳を傾けた。なぜならヨーロッパ人とアメリカ人には力と名声があったからである。またその力と名声により彼らの文化はそれだけいっそう魅力あるものになった。その一方、多くの理由によって日本人は個人的にも国民としても西洋人との関係において控えめな役割に甘んじざるをえなかった。第一に、日本の工業化が遅れをとったため、そして工業制度を学んだ後、太平洋戦争に敗戦したためである。今や日本は復興し、世界一の経済大国になったので、この状況は変わりつつあり、日本人は以前より独断的で横柄でさえある。

それにもかかわらず、日本人と西洋人との間で持たれる会合や両者が参加する国際公開討論会においては、西洋人がいまだにたいいていの場合、自分たちの言語でほとんどの討論をし、後でこう言うであろう。「私が言おうとしていたことをわかってくれたようだ。」もしそこで日本人の言おうとしていたことは何だと思うかと尋ねると、彼は何も理解しておらず自己弁護をするだろう。「日本人は言いたいことがたいしてあるようには全く見えなかった。」

ヨーロッパやアメリカの人々は、率直さが正直さを計る尺度であると信じている。本当に思っていることを言うべきなのである。しかし日本人はそうではなく、社会的役割を重要視する。楯を飾る紋章、つまり名刺の肩書で自分の立場を明確にし、したがって仕事のためにでも遊びのためにでも自分の役割をまとう。西洋においてよりもずっと、個人的な動機（本音）を言わない一方で礼儀にかなったように見せかけ続ける（建前）ことから、人生における満足が生じるのである。そういうわけで、②人の誠実さは、役割にかけられる期待にどれだけかなう行動をとるかによって判断される。西洋のように個人的な感情にどれだけ沿った行動をとるかによってではないのである。

注

- ℓ. 1 ◇ having formulated their thoughts 「考えを練り上げた時に〔後で〕」
○ 時を表す分詞構文 (= when [after] they have formulated their thoughts)
◇ are better at conveying them to others, as well as better at presenting their culture to outsiders, than are the Japanese 「(アメリカ人とヨーロッパ人は) 自国の文化を外国人に紹介するのがよりうまいのと同様にそれら〔練り上げた考え〕を他人に伝えるのが、日本人よりもうまい」
○ be better at < be good at 「～するのがうまい」
- ℓ. 4 ◇ listened は to the Americans にも続く。
- ℓ. 5 ◇ they did so 「彼らはそのようにした」は前文の内容を受ける。
- ℓ. 6 ◇ which made their cultures that much more attractive 「そしてそれ〔= power and prestige〕は彼らの文化をそれだけいっそう魅力あるものにした」
○ power and prestige に補足的説明を加える非制限用法の関係詞節。

- that … それほど, そんなに (that の副詞用法)
- ℓ. 7 ◇ lead O to do [into …ing] 「人を…するよう仕向ける」
 - both individually and as a nation が挿入された形。
 - ◇ adopt 「～を採用する」
 - cf. adapt 「～を適合させる」
- ℓ. 8 ◇ dealings 「交際〔取引〕関係」
 - ◇ in the first place 「まず第一に」
- ℓ. 9 ◇ having learnt it … 時を表す分詞構文。
 - = after [when] they have learnt it (= the industrial system)
 - ◇ now that ～ 「今や～だから; ～である以上《理由》」
- ℓ. 13 ◇ talking 「討論; 話 (をすること)」
- ℓ. 16 ◇ be met by 「～に遭遇する; ～を経験する」
- ℓ. 19 ◇ frankness is the measure of honesty 「率直さは正直さの尺度である」
- ℓ. 20 ◇ say what you mean and mean what you say 「あなたが意図することを言い, 言うことを意図する《直訳》 → 本当に思っていることを言う」
- ℓ. 21 ◇ attach A to B 「A (重要性, 性質など) を B に置く」
 - ◇ by the emblazoning on your shield は, by the title on your business card により同格的に言い換えられている。
 - 前者は後者を比喩的に述べた表現。
- ℓ. 22 ◇ dress your part, whether for work or play 「仕事のためであろうと遊びのためであろうと, 自分の役割を身にまとう」
- ℓ. 24 ◇ while leaving unsaid private motives 「個人的な動機を言わないままにしておく一方」
 - while 「①～の間 ②～の一方」
 - leave O C (OをCのままにしておく) のOが後置された形。

【3】



整理しよう

テーマ別英作文：日常生活

解答・解説

- (1) I hate having to fill in my personal details every time I want to make a purchase.
- (2) It takes time to break in a new pair of shoes.
- (3) I sometimes nearly fall asleep when I'm getting [having] my hair washed at the hairdresser's.
- (4) Excuse me, but you have a run in your stocking.
- (5) I always greet her politely when we meet on the stairs.
- (6) (At a store) I'm going to look around a little more, and I'll be back. [I'll come

back after I've looked around a bit more.]

(7) What is the expiration date for this Japanese confectionery?

テーマ別英作文：社会

解答・解説

- (1) Public junior high schools are coeducational.
○ coeducational 「男女共学の」
- (2) At twenty, we have the right to vote in general elections.
○ general election 「総選挙」
- (3) Especially in the last few years, our Cabinets do not last long [Japanese Cabinets are short-lived]. I have no time to remember the ministers' names.
- (4) Having a qualification can sometimes be [give you] a foot in the door.
- (5) Maybe I should donate these old electric appliances to charity.
○ donate 「～を寄付する」
○ appliance 「(家庭用の小型の) 器具；道具；電気器具」
- (6) We must create an environment that will facilitate greater independence and social participation of the disabled.
○ facilitate 「～を容易にする；促進する」
- (7) Some politicians argue that [According to some politicians] a mature and affluent society is incapable of growing very fast [rapid growth].

【4】

解答・解説

- (1) **d** 「こちらの方が驚きだ。」
more better とは言わないが、This is much better. なら可。absolute とか perfect のような‘絶対性・完全性’を表す形容詞は比較級にできない。main は限定用法で用い、叙述用法では用いないのが原則。
- (2) **d** 「体重を減らせと言われたので、できる限り多く水泳に通いたい。」
○ as ~ as S can = as ~ as possible (できる限り～)
- (3) **b** 「イーサンは双子の兄より才能がない。」
2者のうちの片方を言及する the + 比較級 + of the two と混同しないこと。本問は普通の比較級の構文である。
cf. Ethan is the less talented of the twin brothers.
- (4) **d** 「彼の家庭は私たちが初めて出会った時より生活が悪化しているように思われた。」
than があるので比較級にする。
○ be well off (暮らし向きが良い) ⇔ be badly off (暮らし向きが悪い)
- (5) **c** 「今やますます多くの人々がインターネットに接続している。」
much more は不可算名詞の比較級とみなされる。可算名詞の場合は many more を用

- いる。many fewer は一般的ではない。
- (6) a 「その問題はいまや（以前と比べて）さらに複雑であるようだ。」
比較級を強調するには、much, far, still, even, yet, a lot などを用い、very は使わない。
- (7) a 「ジョンは私より3歳年上だ。」
elder は限定用法で用い、兄弟姉妹間での上下を表す。本問を John is older than I by three years. と言えなくはないが、この形は by 以下がやや複雑な場合のみに用いられるとされている。
- (8) d 「この季節の後半が始まったばかりだ。」
late-later-latest (時間的に遅い), late-latter-last (順番が遅い) の違いは大切。
○ the latter half = the second half (後半)
- (9) c 「さらに情報が必要な場合にはカスタマーサービスまで電話してください。」
far - farther - farthest は‘距離’に用いる一方で、far - further - furthest は‘程度・距離’に用いるのが普通。本文では‘程度’を表すため further がよい。(もっとも、最近では farther を用いる場合も見かける)。
- (10) a 「この歴史小説は先日読んだものよりはるかに興奮させる。」
比較級の強調。(6)の解説参照。

【5】

解答・解説

- (1) b 「合衆国は日本のおよそ25倍の大きさである。」
= The U.S. is about 25 times as big as Japan.
- (2) d 「こちらはあちらよりよくない。つまり、あちらの方がこちらよりよい。」
‘less + 原級’は劣等比較とも呼ばれる。もっとも、本問の This is less good than that. という英文は、This is not as good as that. とした方が自然である。
- (3) d 「私の父は頭脳派というより肉体派である。」
本問では父を誰かと比べているのではない。このように同一(人)物の性質や状態などを比べる場合には - er 型の比較級を取る形容詞であっても more ~ than …の形となる。
Ex. He is more kind than clever. cf. He is kinder than she is.
- (4) b 「この湖はこの地点が一番深い。」
(3)と同じように、同一(人)物の性質や状態などについての比較を表す形容詞が補語として用いられている場合には、普通 the をつけない。
Ex. He was happiest last year. cf. He was the happiest in our class.
- (5) d 「このシャツはファッショナブルというよりはむしろ快適です。」
○ A rather than B 「BというよりむしろA」
- (6) d 「この携帯電話はあれと比べてはるかに劣っている。」
than ではなく to を用いて比較の意味を表す表現がある(ラテン・ギリシア系比較と言われることもある)。その場合はもちろん more を用いない。
e.g. senior (年上の), junior (年下の), superior (優れた), major (大きい方の),

minor (小さい方の), prior (前の), posterior (後の) などがある。

(7) a 「彼は上流階級から名声を獲得した。」

特定の何かと比べるのではなく、比較対象をはっきり示さず漠然と程度の高いことを表す絶対比較級という用法がある。the lower animals (下等動物) ⇔ the higher animals (高等動物), the older generation (歳を取った世代) ⇔ the younger generation (若い世代) などのように対になる場合が多い。

(8) b 「このトランペットは2つのうちでよい方だと思う。」

特に書き言葉で2者の内「～な方」という場合には、比較級に the を付け、the + 比較級 + of the two の形となる。ただし口語ではしばしば最上級が用いられる。

(9) d 「これは私がこれまで見た中でずば抜けて最高級の絵画です。」

日本語では「これまで見たことのない絵画」と言った場合に、never にしないように注意。

(10) d 「私たちはこんなうさんくさい話を信じない分別を持つべきだ。」

○ know better 「分別がある」, know better than to do 「…しないだけの分別がある；…するほどバカではない」

【6】

解答・解説

(1) is → are, as longer than → as long as, that → those

「私の犬の耳はあなたの犬の耳の2倍の長さがある。」

さらに two times を twice に書き換えてもよい。

(2) as great painter → as great a painter

「トーマスはこの国では古今稀なほどの優れた絵描きだ。」

He is such a rich man that he can buy anything. = He is so rich a man that he can buy anything. と同じように、as は比較の副詞のため、as a great painter とはならず、as great a painter という語順となる。

○ as ~ as ever lived 「古今稀なほど～だ；これまでの誰にも負けないほど～だ」

(3) commonest → commonly

「最も古く、最も一般に知られている計算機はそろばんだというのを知ってますか。」

commonly known を最上級にすると the most commonly known となる。

(4) other を取る。

「東京には筑波山より高い建物はない。」

other (他の) を入れるのは同じ種類を比べている場合のみ。例えば、「スカイツリーより高い建物はない。」ならば、No other building is higher than the Tokyo Sky Tree. となり、この場合の other building は「スカイツリー以外の建物」を示す。

(5) more interesting → the more interesting

「私はサッカーと野球が好きですが、2つのうち、サッカーの方が面白いと思います。」

2者のうち「～の方」という場合には the + 比較級となる。

(6) much more → many more

「今度のオリンピックで、日本はどの国よりもはるかに多いメダルを取ることを望んでい

る。]

much more は不可算名詞を形容する場合に用いる。可算名詞の場合には many more となる。また、最上級を書き換えると‘比較級 + than any other + 単数形’となるのが普通だが、口語では‘比較級 + than any other + 複数形’とすることもある。

(7) as child → as a child

「あなたが大人になった時、子供として持っていた気持ちほど新鮮なものはない。」

as child as を比較と考えると、英文がおかしくなる。

(8) sleep を取る。

「疲れて眠くなって家に帰った時でも、私はアラームをかけることすらしなかった。というのは7時に起きられると依然確信していたからだ。」

not so much A as B (AというよりむしろB) ではなく、not so much as ~ (~すらしない) と考える。

(9) which を取る。

「わが国で最も必要としないものは、どんなにささいなものであれ、再度の戦争である。」

The last thing の後に関係代名詞 that が省略されている。主語は The last thing であり動詞が is となる。

○ the last ~ 「もっとも ~ (しそう) でない」

Ex. He is the last person to do it. (彼はそれをもっともしない人です。)

(10) I have to make yourself happy → I have to make you happy

「私があなただけを幸せにできる力より、あなたが自身を幸せにする力の方が大きいはずだ。」

than 以下は I が主語になっているから yourself ではおかしい。

今日の一言

A rolling stone gathers no moss. 「転石苔を生ぜず。」

rolling は stone を修飾する現在分詞である。元来、この諺は「いつも旅をしている人は1ヵ所に根付けない、すなわち成功しない」という意味だったが、次第に「いつも新しい環境に身を置く人は自分を向上できる」というよい意味も付け加えられた。前者から言うと、あれこれと問題集に手を出すのではなく、まずはこのテキストをしっかりとマスターしてほしい。後者から言うと、過去のことにこだわらず、常に新鮮な気持ちでページを開いて問題を解いていこう。

添削課題

全訳

①日本に暮らす利点の1つに、日本で知り合う外国人がたいいてい、自国で知り合う人達よりおもしろいということがある。

自由意志で来日し、好んで日本にとどまっている人々は、自国の普通の人たちとは異なっている傾向がある。そうでなければ、日本に来るなんてことはなかったわけだ。私の経験では、そのような人達は概してきわめて興味深いのである。

彼らが日本に来ることになった理由は様々であるが、日本に住むことを選んだという事実が彼らに連帯感というものをもたらしている。②私自身、英国にいたとして持ち得ただろうと思われるより多くの友人を、東京にいる外国人の中から獲得している。

大袈裟なことを言っていると聞こえるかもしれないが、私は大袈裟とは思わない。もちろん英国においても、多くの知人を持つことになるだろうが、日本でほど多くの親友を持つとは思えないのだ。

私の友人にはアメリカ人、イギリス人、他の多くの外国人が含まれるようになった。③私に関する限り、こういった人たちは様々な社会から選り抜かれた人達なのだ。

解説

①◇ meet = see or be introduced to (someone) for the first time

◇ mostly = chiefly ; usually ; almost all

②◇ I would have if I were in England : 仮定法過去

③◇ as far as A is concerned : this phrase is used to introduce A's opinion

◇ distillation[dɪstɪlə'ʃən] 「抜粋；精；髓」

cf. distill = extract the most important aspects of